

薬連ハイライト

JPLフォーラム2022が開催される!!

令和4年2月11日(金)、JPLフォーラム2022が「今こそつなごう、女性の力」をテーマに開催された。東京都などでまん延防止等重点措置が適用されていることから、AP日本橋のスタジオは挨拶や運営の担当の方々のみとし、完全ウェブでの開催となり、来賓3名、役員・企画実行委員31名、全国より47名の女性薬剤師が参加した。

司会は小屋敷企画実行委員が担当し、荻野副会長の挨拶で開会。来賓として、近藤由利子日本女性薬剤師連盟会長、とかしきなおみ前衆議院議員より、それぞれ神谷まさゆき副会長を応援する挨拶があった。

その後、本田顕子参議院議員より、「全国比例選挙を通じて感じた1票の重み」と題して講演があり、薬剤師二人体制の重要性や、顔の見える関係の人から確実な票を増やすことの大切さについて述べられた。

続いて、神谷まさゆき副会長が登壇し、全国キャラバンで感じた思いやこれからの薬剤師・薬業界への熱い思い、そして必ず未来につなげたいという強

い決意が訴えられた。

次に橋本常任総務からフォーラムの目的と趣旨説明が行われた後、A～Fまでの6ブロックに分かれ、企画実行委員がチューターとなり「広げようサムシンググリーン」をテーマにディスカッションが行われた。

各グループからの発表後の岩本幹事長の総評では「このままではいけない、これから7月に向けて全力で頑張ってもらいたい」と厳しく愛のある激励があった。

その後、愛知県薬剤師連盟 原和子先生のコールで全国の女性薬剤師が心をつなげ、山本会長の閉会挨拶で終了した。



もとゆき便り

診療・調剤報酬の改定

参議院自由民主党政策審議会長
参議院議員・薬剤師
藤井もとゆき



4月から診療・調剤報酬が改定されます。今回の調剤報酬の改定では、薬剤師・薬局の対物から対人中心の業務への転換を推進する観点から、調剤料等の評価体系を抜本的に見直し、薬剤調整料と調剤管理料に再編すると共に服薬管理指導料が新設されました。また、糖尿病患者に対する調剤後の状況確認や医療的ケア児に対する薬学的管理の評価等、対人業務に対する評価の拡充も行われています。

薬局の機能と効率性に応じた評価を見直す観点から、調剤基本料3の適用となる薬局について、これまでの同一グループでの処方箋受付回数が多い薬局に加え、同一グループの薬局数の多い薬局も対象となりました。

後発医薬品調剤加算については、後発医薬品の調剤数量割合の基準をそれぞれ5%引上げて評価を見直すと共に、調剤数量割合が著しく低い薬局の減算規定の評価の見直しと対象範囲の拡充が行われています。同様に、医科における後発医薬品使用体制加算、外来後発医薬品使用体制加算の基準の見直しも行われています。

今回の改定ではリフィル処方箋が新たに導入されるなど、薬剤師・薬局の機能を更に発揮することへの期待を強く示すものとなっています。この期待にしっかり応えていくことが、地域住民や患者からの一層の信頼向上に繋がるものと思います。

オレンジ日記

予算委員会で質問

自由民主党副幹事長・女性局長代理
参議院議員・薬剤師
本田 顕子



3月3日(木)に開催された参議院予算委員会において質問の機会をいただきました。

ロシア軍によるウクライナ侵略が継続されている情勢であったため、まず、ウクライナ侵攻に対する我が国の対応について質問しました。

次に、コロナ対策について、3回目のワクチンの接種状況、小中高における公衆衛生教育の必要性等について担当省庁に質問しました。ワクチン接種についての答弁の中で、島村大厚労政務官からワクチンの分注などに携わっている薬剤師への感謝の言葉が述べられ、また、公衆衛生教育についての答弁の中で、末松信介文科大臣から学校薬剤師による指導の充実の重要性について発言されたことは、予想していなかった答弁であったため、とてもうれしく受け止めました。

最後に、後発医薬品の安定供給に関して、2年以上にわたる供給不足に対して現場の薬剤師や薬局から悲鳴の声を聞いていること、令和4年度政府予算案に後発医薬品の使用促進事業と信頼性確保事業が盛り込まれているが、現場の関係者にとって納得できる予算であると考えてよいのかなどを質問しました。

後発医薬品はもとより、医薬品の安定供給が確保されるよう、引き続き国政の場で声をあげてまいります。